

令和8年8月24日

陳情第83号

小田原市議会議員の定数の1名削減を求める陳情

小田原市議会議員の定数の1名削減を求める陳情

【陳情趣旨】

昨今の物価高騰や生活コストの上昇に伴い、市民の暮らしを取り巻く環境は非常に厳しい状況が続いています。多くの市民や民間事業者が厳しいやりくりを重ね、痛みに耐える日々を送る中で、市議会におかれても市民生活に寄り添い、自ら身を切る改革を推し進めることが求められています。

議員定数については近年、行政事務のデジタル化や議会運営の合理化が進んでおり、定数を削減したとしても、市民の声を幅広く集約する機能や行政に対するチェック機能を損なうことなく議会活動を維持することは十分に可能です。

実際、小田原市議会では現在1名の欠員が生じていますが、本会議や委員会での審議、行政に対するチェック機能について、支障が生じているという話は聞きません。この事実はまさに、定数を1名削減しても議会機能が十分に維持できることを客観的に証明しています。

また、過日終了した「議会改革推進委員会」では、平塚市など本市よりも人口が多い自治体が、本市より少ない議員数で支障なく円滑な議会運営を行っている実例が示されました。そうした他市の実績から見ても、本市議会の現行定数には十分な見直しの余地があり、1名の削減は極めて現実的かつ合理的といえます。

しかしながら同委員会では、定数削減に向けた前向きな意見が出ていた一方、「現状維持」や「定数増員」を求める意見もあり、そしてそれがあたかも「民意」であるかのように語られる場面が見受けられました。生活に苦しむ市民の現実や他市の効率的な運営実態から目を背けるこれらの主張は、市民感覚から著しく乖離していると言わざるを得ません。

議員定数を1名削減することは、現在の欠員の状態での実績や、近隣市の事例に照らしても、現行の議会機能に支障を来さず、結果として、浮いた経費を福祉や生活支援などの市民の暮らしに直結する施策へ還元する手段となるものです。

以上の理由から、小田原市議会が市民の厳しい現実に真摯に向き合い、客観的事実と市民感情を汲み取り、身を切る改革を断行されるよう、以下のとおり陳情します。

【陳情項目】

次回の議員選挙までに条例の改正等を行い、小田原市議会の議員定数を現在より1名削減すること。

令和8年8月24日

小田原市議会議長

井上 昌彦 様

提出者

小田原市

鈴木 達之 ㊞

小田原市

田嶋 崇之 ㊞

小田原市

劔持 敦 印